

総括質問

清風クラブ

本市議会では議案への質疑と、市政などを問う一般質問を合わせて行い、それを「総括質問」としています。今定例会では、10人の議員が総括質問を行いました。質問者の文責により質問と答弁の要旨を紹介いたします。

★詳しい質問内容は、会議録をご覧ください。



持続可能なまちづくり

数田 俊樹 議員

問 2015年に策定された公共施設等総合管理計画は、10年間で公共施設の延べ床面積総量を4%相当縮減することを目標としていたが、このほど示された改定素案では、2021年以降の10年間で1・5%相当の縮減へと大きな変更を行った。目標を見直した理由と、目標値を1・5%とした根拠を伺う。

副市長 計画の改定に当たり、施設の長寿命化のための改修周期や、施設総量を管理する対象施設の範囲などを見直したところ、今後必要となる施設の更新費用などに変化が生じたため、管理目標を見直した。また、今後の30年を10年ごとの期間に分け、期間ごとに想定される建て替え費用に応じて不足額を案分した結果、最初の10年間で解消すべき不足額の更新費用に占める割合が1・5%となり、これを目標値とした。

問 10年間で目標を達成すると言いつつ、再度の変更も考えられると思うが、1・5%相当の縮減は

必ず達成させる意志があるという認識でよいか。

市長 さまざまな意見なども含めて議会でも議論をさせていただきながら、取り組みを進めていきたい。

問 統廃合や複合化の意思決定において重要視することは何か。

副市長 計画がより実行性のあるものとなるよう、総合管理計画の管理目標の達成に向けて庁内が一丸となり取り組む必要がある。施

設の統廃合や複合化が必要

な理由、得られる効果などを市民に早期かつ丁寧に説明し、意見を伺いながら進めることが重要である。

問 明確な期間設定や数値目標を立てることは組織運営の基本であると考えますが、総量縮減の議論はどのような組織体制で進めていくのか。

企画政策部長 行政改革的な視点が必要なことから、まずは行財政改革の本部体制や、外部委員を招いた委員会を活用していきたいと考えている。また、庁内組織である公共施設の管理検

討委員会も基軸として、検討体制の位置付けをしたいと考えている。

問 事業仕分けと同様の切り口で、施設仕分けというものを今後計画する考えはあるのか伺う。

企画政策部長 コロナの状況を見据えながら現在検討している。今後、どのような取り組みをしていくかは内部で検討したい。

▼このほかの質問 平塚市公共施設等個別施設計画 平塚市橋りょう耐震化計画 GIGAスクール構想 二酸化炭素排出ゼロ表明ほか



さらに、選ばれるまち、住み続けるまちに

黒部 栄三 議員

今後の図書館運営

問 昭和45年に知の拠点として中央図書館が設置された。昭和57年には移動図書館のあおぞら号が誕生し、その後、北、西、南図書館が順次設置された。令和2年度には、中央図書館の窓口等業務の民間委託を導入し、また、移動図書館の在り方の検討や、地区図書館への指定管理者制度導入の準備を進めてきた。現在、移動図書館のあおぞら号は廃止する方向であるが、それを補完する体制について伺う。

社会教育部長 移動図書館は現在の車両の老朽化が進んでいて、更新には多額の費用が掛かる。そのため車

両の維持管理費用など、費用対効果を考慮しつつ、市民にとってより利用しやすい方法を検討してきた。特に利用者が多い金目・岡崎地区については、地区内の公共施設や高齢者の利用施設などと連携し、予約した本の受け取りができる窓口の設置や、配本サービスを行うなど、読書環境の整備を進めたいと考えている。

問 市長は「さらに選ばれるまち、住み続けるまち」を目指しているが、図書館などの文化施設が充実していることはまちの魅力になる。最近の図書館のトレンドはカフェを併設したり、話し合いのスペースや親子で遊べる場所を設置したり、多くのニーズに応えら

れている。今後とも一定数あるので、今後も検討していきたいと考えている。

問 防災・減災体制の更なる強化を進めるためには、市長の強力なリーダーシップや発信力が必要と考える。見解を伺う。

市長 総合計画の中に、安心・安全に暮らせるまちづくりを位置付けて取り組んでいる。コロナ禍での避難所対策なども含めて、しっかりと市民に発信をして対策に取り組んでいきたい。

▼このほかの質問 認知症支援策の推進 地域医療福祉拠点整備モデル地区構想

していくことを基本としている。避難生活が中長期的になる場合には、県が締結した協定に基づき、旅館やホテルなどを活用する対応も想定している。

問 コロナ禍で災害が起きた場合には、避難所に行きたくないという人もいると思う。本市の方針とは違うが、車中泊も検討すべきと考えている。見解を伺う。

防災・危機管理監 さまざまな課題もあり、車中泊は推奨していない。しかし、他市では民間の駐車場などを活用し、協定を結んでいる事例もあり、要望する声

インターネット中継

本会議の質問と答弁の様子は、インターネットで生中継と録画中継を行っています。

各議員の質問内容を詳しく知りたい方は市議会ホームページからアクセスしてください。議員、会派、ことばなどを検索して映像を選べます。

録画中継は発言日のおおむね1週間後から、会議録をホームページに掲載するまでの間、ご覧いただけます。



防災・減災体制のさらなる強化を。

須藤 量久 議員

平塚市地域防災計画改訂から

問 本市の北西部及び西部地域には、地震による崩壊の危険がある崖が多くあり、これらの区域に対する迅速な対策が求められる。これまでの取り組みについて伺う。

防災・危機管理監 急傾斜地崩壊危険区域について、県とともに擁壁などの整備を進めているほか、土砂災

害警戒区域などについては、土砂災害ハザードマップによる住民へのリスク周知や情報伝達体制の整備など、土砂災害防止のための取り組みを進めている。

問 土砂災害警戒区域などについては、主にソフト面での対策しかできないことは理解しているが、逗子市では、対策を進めるために民有地での防災工事助成制度を始めた。このような制度が必要と考えるが、見解

を伺う。

防災・危機管理監 県内他市でも独自の支援制度を設けている。庁内で検討していきたいと考えている。

問 被害状況などにより、指定された避難所への避難が困難な場合や、感染症対策をした場合には避難所に入りきらない事態も想定される。新たな避難先の確保が求められると思うが、見解を伺う。

防災・危機管理監 通常使用する体育館以外の校舎棟など、柔軟に活用できるよう、施設管理者に協力を依頼し、順次スペースを拡大

していくことを基本としている。避難生活が中長期的になる場合には、県が締結した協定に基づき、旅館やホテルなどを活用する対応も想定している。

問 コロナ禍で災害が起きた場合には、避難所に行きたくないという人もいると思う。本市の方針とは違うが、車中泊も検討すべきと考えている。見解を伺う。

防災・危機管理監 さまざまな課題もあり、車中泊は推奨していない。しかし、他市では民間の駐車場などを活用し、協定を結んでいる事例もあり、要望する声

清風クラブ 所属議員



片倉 章博 議員



野崎 審也 議員



諸伏 清児 議員



坂間 正昭 議員

れる施設になっている。一方で、年代や地域で行政サービスの格差があつてはならないと思っている。人口増が顕著な金目地区に子供から子育て世代、高齢者までが利用でき、子育て機能や公民館機能を併せ持った複合施設を検討すべきと思うが、見解を伺う。

市長 以前から地域の声があることは承知しており、いろいろな機能を持つ複合施設は大変魅力的であると思う。しかし、本市としては4館構想で進めてきた経緯がある。公共施設等総合管理計画などを踏まえ、検討事項とした。

▼このほかの質問 有害鳥獣について 歳入確保策について